

医療現場独特の不思議な慣習

保健医療学専攻 看護学分野 看護教育学領域 松本圭古

金融 OL を辞め、看護師になって 15 年目になる。

看護学校に通う間も、看護師として働くようになってからも、「社会人経験者」はいわゆる「ヨソの子」扱い。

医療現場独特の不思議な慣習について疑問を口に出すたびに「これだから他の業界を知っていると…」と半ば忌々しげにも言われ、どうしてこの人達は何の疑問も感じないでいられるのか、こういうことを言う自分の方がいけないのではないかと思いつけていた。

15 年働き続ける間に、看護学校入学者に社会人経験者は増え続け、今や新入生の 4 分の 1 が社会人経験者という時代になった。それでも、どこかで「ヨソの子」とされ続けた自分はまだ、ヨソの子の視線で看護師でいる。

でんぐりがえしプロジェクトで講師として来られた方々は皆、ある日、立場の転換を経験していた。

講義を聞くたびにいつも感じていたことがある。

理解のために我々は「インタビュー」という手法をよく使う。

しかし聞き取ることで内面を覗き見る「インター」「ビュー」ではなく、本当に必要なのは、違う立場の人の目には何が写っているのかを知ること。すなわち「トランスビュー」なのではないかということだった。

今回の講義の中で、この「トランスビュー」に気づいたことが一番大きな学びであったと思う。

トランスビューは、いわば視点のでんぐりがえし、しかしこれまでの過程でいろいろなものを身につけ大きく膨れ上がり硬くなった体では、なかなかひとりで「でんぐりがえし」をするのも難しくなっていて、誰かの手を借りなくてはできなくなっている。

ゆきさんご紹介の講師の方々の手を借り、やっと私も大きな体ででんぐりがえしをできそうである。